2010年3月 マナ通信

御言葉を通して主にある交わり

３年間で、旧約１回、新約２回通読する。毎月、旧約と新約を半分づつバランスよく読んでいける。

ディボーションとは、神の前に静まって、聖書を読み、黙想し、祈ること。神とのコミュニケーション

《今月は１月の聖書通読（創世記1-26章・マタイ1-15章）の感想です》

３年の目標を立てて、共に「マナ」の聖書通読が始まり、霊的覚醒を覚えている。（T.H）

毎日のディボーションの時を大切に感じています。常日頃、神様を思うより人を思うことの多い自分を感じるからです。毎日、自分の心の中を点検する。隠されているものが光に照らされる。そして、信仰は罪の赦しによって与えられることを教えられています。（S.T）

研ぎ澄まされた朝の静寂の中で、ディボーションを行うことは、体の隅々まで、気力が流れ込み、心が落ち着く。この世のすべてのものに、感謝する気持ちが沸き上がる。そして、神の導きによって、すべてがなされていく。
マナは、やはり、心のエネルギー源である。（N.H）

すべての始まり

映画を途中から見ても、まるでその筋がわからずおもしろくありません。聖書も、この創世記があって初めて、その全体を理解できます。創世記にはさまざまな始まりが記されています。世界の始まり、人間の始まり、結婚の始まり、家庭の始まり、罪の始まり、死の始まり、国々の始まり、言語の始まり、イスラエル民族の始まり…。何よりも、神による救いの計画の始まりが記されているのです。　（ディボーションガイド・マナ１月号32頁より）

１月から聖書通読（マナ）がスタートしました。解説とショートメッセージに、毎日助けられています。３年間続けられるように、祈りながら歩ませていただきます。（S.H）

聖書を読み続けられるか？　と不安がありました。マナを毎朝、同じ時間に聖書と共に読み始めました。不思議と心が落ち着いて、感謝の気持ちが湧くようになりました。福音センターの皆様も読んでいると思うと、自然な励みになっています。
（M.K）

毎日忙しい日を送っている私ですが、ディボーションを始めて、神の御言葉を頂いて、１日生かされている。本当に感謝いたします。（M.T）

マナは心の食べ物です。体が口から栄養をとり、手足を動かす原動力となっているように、心もまた、安らかであり落ち着くためには、エネルギーが必要です。これがマナだと思います。聖書を一読の上、解説を読むのが楽しみです。これからも信仰一筋で生活していきます。神様、感謝しています。（C.H）

登場人物のいやなところが気になります。私の事だと、主が教えてくれてるようです。
（M.O）

昨年の暮れに埼玉県飯能市から、群馬県高崎市に引越しをしました。慣れない土地での生活の事も、主イエス様はみんなご存知です。ディボーションガイド「マナ」を通じて主の御声を聞き、主の導きの中で歩んでゆきたいと思います。兄弟・姉妹方と共に聖書通読が出来る事、本当にうれしいです。（T.T）

マナを使っての聖書通読を１月より始めました。時には２・３日分まとめて読んだりしていますが、驚いたことにまだ続いています。「解説」「メッセージを聴こう」のページも解りやすいのがありがたいです。３年間で全巻読む…気が遠くなりそうですが、続けることが大切。気負わず地道に頑張ります。（C.K）

３年間という長い期間の通読を、初めから参加できて感謝です。自分ひとりで通読するより、ガイドブックがあると、励みになるのと同時に、新発見もあって、嬉しいです。
　ラケルがヤコブと共に父の家を出る時に、テラフィムを持ち出すくだりは、いつもズキッとします。私の中に、異邦の神々や習慣への畏れのようなものが残っていることを感じることがあります。葬儀や法事に出た時は、本当に戦いです。拝むことをしないのは、本当に勇気がいります。他人には、頑固で変わり者に見えるだろうな、と心がぐらつく時もあります。いつも主よ助けてください、と心の中で叫び、切り抜けてきました。主にのみ信頼できるようにならせて下さい、と祈っていきます。（H.H）

昨年のクリスマス･イブに神様はいくつかの大きなプレゼントをくださった。自分の内側を見た時に、自分の出来ないこと・足りないことを代わってしてくださっている主が、自分の中に居ることにはっきりと気づいた。とても嬉しかった。その喜びは一週間続いた。一日中笑顔でほっぺが痛くなった。苦しいながらも無邪気に笑えていた子どもの頃以来のことだった。「笑いの質を変えられる神。笑いが清められたのです」（マナ１月号81頁）（C.W）

初めてマナを読みました。ディボーションの流れがとても良いと思いました。「はじめに聖書を読もう」のところに、「静まって、心を主に向け、ゆっくりと２・３回読む」と書いてありますが、それを読むだけで、私のせっかちな性格が落ちついて来ます。書くことによって、気持ちが聖書の中に入り込み、次に考えさせる、自分を振り返る。「解説とメッセージを聴こう」のところで、私の知らなかったことを教えられ、気づかされ、祈り、決心と進むにつれ、神様の恵みの中に浸り、心に喜びが湧き、穏やかな気持ちで一日が始まります。今迄、眠っている事が多かった聖書・讃美歌・聖歌も、楽しみを伴いながらフル回転しています。
　１月号の「御声を聴きながら」はオペラ歌手のベー・チェチョルさんの絶望のふちから奇跡の復活をとげる迄のお話しが出ていました。その中で「私は『声を失う』という試練がなければ、神の深い恵みを感じることが出来なかった。苦しみ、苦難は恵みの通路であると感じています」と書いてありました。
　ディボーション第１日目の「夕があり、朝があった」の学びを通して、夜も闇も、神様が私達に必要として創造されている。その時こそ、キリストの恵みの豊かさに触れて、本当の朝を迎えることが出来るのだと知りました。今迄、なんの拘りもなく、スラスラと読んでいた「夕があり、朝があった」の御言葉を感謝を持って読みました。（M.I）

巻頭に、ベー・チェチョルさんの証《苦難は恵みの通路》がありました。その証に大変感動を覚えました。
　100年に一度の偉大なオペラ歌手と言われたにも拘わらず、病気で声を失い、失望の中から、主の新たな癒しを受け、それからは自分のためにではなく、主の証のために歌うようになられた証は、主に触れられた人生の深い真理を教えてくれます。特に、「毎日、自分を表現するために歌うことがないように。」と祈られていることに日々の社会生活の中で、主とともに歩む上での大切なことを学ぶことができたと思います。
　「この世が大きく見えて、神様の恵みを見失うことがないように。私が、神様に喜ばれる人になるように。」との祈りは、今の困難な会社生活に大きく指針を与えられる証でした。
　今、新しい職場で多様な多くの方々と拘わるようになり、また、多くの問題が毎日湧き出す中、精神的にも体にも多くの負担が急激に増加する日々ですが、その中で、ベーさんの証を読めたことは大きな慰めとなりました。（N.T）

１月１日（金）のメッセージ「夕があり、朝があった」（１：５）　私は、今まで「朝があり、夕があった」と思って来ました。私たちは「初」という言葉が好きです。昨日までの１年はどんなことがあろうとも、今日から１年が始まるのだから、とあらたまるということに期待をします。これも一面のことですが、一方聖書は、「夕があり、朝があった」と語ります。
　メッセージは、「なんと多くの人々が、人生の夜に、災いの日に、かけがえのない宝を見いだしたことでしょうか。人生の夜に私たちは自分の無力を、罪深さ、頼りなさを知らされ、そこでこそ、神様の愛の温かさ、キリストの恵みの豊かさに触れて、本当の朝を迎えることができるのです」と。この日から、夕から始まる１日を意識するようになりました。マナの聖書通読１日目から大きな励ましを受け、楽しみになりました。（M.F）

翌朝早く（創 22：３）　こともあろうに、神様はアブラハムに「あなたの愛しているひとり子イサクを全焼のいけにえとしてささげなさい」と言われたのです。私だったら、「イサクはわたしのひとり子ですよ、全焼にしたら跡継ぎがいなくなります。あなたが私になさった契約はどうなるのですか。なによりも人道的に許されないことではないですか」などと、いろいろ理屈をならべて、１週間考えさせて下さい、いや１ヶ月、いや１年と、引き延ばして、神様をあきらめさせようとしただろうと思います。「翌朝早く」なんと素晴らしい信仰の従順でしょう。さすが信仰の父と呼ばれる所以ですね。（I.F）

お願い 貴重な感想をお寄せいただきありがとうございました。次回は２月の一言感想になりますが、３月１０日頃までに送っていただけると幸いです。　送り先は、E-mail：fukuint@hotmail.com ／電話・ＦＡＸ：050-1014-0153（福島）まで。